

## 事前アンケートとりまとめ

交流会の参加申し込み時に、下表の内容で事前アンケートを行いました。本紙は、その結果を事務局でとりまとめたものです。

とりまとめにあたり、文言整理や主旨の要約を行い、同内容の意見については、掲載を省略しています。また、参加者へのアンケートでは、選択肢による回答をお願いしましたが、具体的内容を記載いただいた部分については、他自治体の参考となるような具体性の高い回答を紹介しています。全ての回答内容を掲載できていない点や、いただいた文章のままの記載ではない点、ご了承ください。

また、項目によっては、グループ討議の参考となるよう便宜的に意見を分類していますが、複数の分野にまたがるものなどもあり、一定の目安としてご覧いただければと存じます。

参加者へのアンケート	<p>1 あなたが参画している地域自立支援協議会において、地域移行・地域生活支援の目標達成に向けた議論はどのようなかたちで行っていますか。具体的には、どのような内容でしたか。</p> <p>【回答選択肢】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 本会議において行っている。</li> <li>2 部会を設置して行っている。</li> <li>3 地域移行・地域生活支援には関与していないため、わからない。</li> <li>4 議論されたことはない。</li> </ol> <p>1又は2と回答した場合、具体的な内容を記載してください。</p>
	<p>2 協議会活動が活性化したと感じたことはありますか。それはどのようなときですか。具体的な事例があれば、ご記入ください。</p> <p>【回答選択肢】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 障害当事者が委員に加わったとき。</li> <li>2 委員の改選、部会の再編など、組織を更新したとき。</li> <li>3 他自治体の活動を取り入れたとき。</li> <li>4 その他</li> <li>5 活性化したと感じたときはない。</li> </ol> <p>具体的な事例があれば、ご記入ください。</p>
区市町村へのアンケート	<p>1 貴区市町村では、地域移行・地域生活支援を障害福祉計画に位置づける中で、どのような取組を行ってきましたか。また、行っていく予定がありますか。</p>
	<p>2 貴区市町村の地域自立支援協議会では、当事者委員の存在によって、地域移行・地域生活支援という課題への取組が、どのように変わりましたか。また変わることが期待されますか。</p>

## 参加者へのアンケート

質問1：あなたが参画している地域自立支援協議会において、地域移行・地域生活支援の目標達成に向けた議論はどのようなかたちで行っていますか。具体的には、どのような内容でしたか。（複数回答）

回答数	74件
-----	-----

選択肢	件数
1 本会議において行っている。	30件
2 部会を設置して行っている。	41件
3 地域移行・地域生活支援には関与していないため、わからない。	14件
4 議論されたことはない。	17件

地域移行・地域生活支援の目標達成に向けた議論は、「部会を設置して行っている。」という回答が最も多く41件だった。また、「本会議」と「部会」の双方で議論を行っているとした回答も23件あった。一方で、「議論されたことはない。」という回答も17件あった。

### 【具体的な内容】

区市町村名	回答
文京区	グループホームなど、住居確保について議論を行っている。
杉並区	部会員から日頃の支援の中で課題に感じていることのアンケートを実施、アンケートを基に話し合っている。
	長期入院者の調査を行い、地域の支援者と協力をして病院訪問を行った。
北区	地域生活部会において、主に「地域におけるサービス提供体制の整備」「安全・安心な暮らしの確保」「文化芸術・スポーツ・余暇活動の推進について」を検討している。現在は、区内初めての入所施設設立に向けて見学会等を行ない、望ましい入所施設について検討しているところである。
足立区	本会議・暮らし部会にて、地域生活支援拠点等担当者による地域移行等に関する検討の報告を受け、意見交換・協議を行った。精神医療部会にて、「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」の構築に向けたワーキンググループの事例検討から抽出された地域移行等の課題について協議している。

区市町村名	回答
小平市	地域生活支援拠点等事業について、課題等を話し合い、円滑な実施ができるよう努めている。
国分寺市	近隣病院との定期的会合・精神障害当事者の市民へのインタビュー・退院意欲喚起や退院支援意欲喚起のためのツール作成

質問2：協議会活動が活性化したと感じたことはありますか。それはどのようなときですか。具体的な事例があれば、ご記入ください。（複数回答）

回答数	64件
-----	-----

選択肢	件数
1 障害当事者が委員に加わったとき。	29件
2 委員の改選、部会の再編など、組織を更新したとき。	23件
3 他自治体の活動を取り入れたとき。	4件
4 その他	20件
選任して間もないのでわからない。	(6)
その他（以下は、主な内容） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 障害者施策推進協議会に意見提案ができたとき。また、それらが具体的施策として実現したとき</li> <li>・ 差別解消条例策定に向けて議論したとき</li> <li>・ 全体会や部会において地域課題の解決に向けて、具体的な方法を検討したり協議をしたりする際</li> <li>・ オブザーバーの参加があったとき</li> <li>・ 一般市民で協議会委員として参加した方と交流した際</li> <li>・ グループ討議を取り入れたとき</li> <li>・ 協議会主催のシンポジウムを実施したとき</li> <li>・ 誰もが楽しめるイベントなどを共同して行った際</li> </ul>	(14)
5 活性化したと感じたときはない。	9件

注：（ ）内は、その他20件の内訳

協議会活動の活性化について、「障害当事者が委員に加わったとき。」という回答が最も多く29件、「委員の改選、部会の再編など、組織を更新したとき」という回答が23件でこれに次いだ。また、「その他」としていろいろな具体例も挙げられた。一方で、「活性化したと感じたときはない。」という回答も9件あった。

## 【具体的な事例】

区市町村名	回答
文京区	当事者視点からの意見や、先進的な活動をロールモデルとすると活動が促進されると感じる。
北区	当事者本人の思いを直接聞ける機会があり、保護者としての視点との違いが実感できる。
荒川区	自立支援協議会に障害当事者として、加わったことは意義があると思うが、委員の積極的な意見や議論に欠けているように感じている。
府中市	組織の更新は、新たな視点や考え方を発見するきっかけとなっているように感じる。
日野市	市の施策として、新しい委員会が立ち上がった時は、協議会での議論が後押しになったと感じた。(医療的ケア児等支援協議会、精神障害者等支援協議会など)
東大和市	民間事業者を巻き込んだ取り組みや、動画の作成と公開など
あきる野市	定期的を開催する専門部会とは別に、当専門部会において自主的な会合が設けられたとき(放課後等デイサービス事業所と児童発達支援事業所の会合)。

## 区市町村へのアンケート

質問1：貴区市町村では、地域移行・地域生活支援を障害福祉計画に位置づける中で、どのような取組を行ってきましたか。また、行っていく予定がありますか。

地域生活への移行促進	
荒川区	自立支援協議会の地域移行部会（知的WG・精神WG）において、入所施設や入院先で、本人や家族の意向を調査するとともに、実際に地域移行の希望がある方については、移行先の調整等を行った。
江戸川区	障害当事者や障害福祉サービス事業者の会議へ出向き、様々な立場から意見をいただく。
府中市	今期から設置した地域移行部会において、施設入所者や長期入院者に向けてアンケートを実施していく予定。
地域生活支援拠点等に関する取組	
文京区	地域生活支援拠点の整備を進め、関係機関の連携を深めることにより、支援体制の構築を図っている。
東大和市	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域生活支援拠点の事業として「自立体験事業」を実施し、地域移行でも活用できるようにした。</li> <li>・自立支援協議会相談部会で、居住支援、自立生活援助等の学習会を行い、課題の検討をしている。</li> </ul>

精神科病院から地域から地域生活への移行	
中央区	リムラッドによる長期入院患者数調査（R4）
大田区	地域移行等の検討は自立支援協議会ではなく、主に精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの検討の中で行っている。その中では、長期入院患者の把握、地元病院への働きかけ、社会資源の抽出、関係機関・医療機関向け研修の開催・ピアサポートの理解啓発等の取り組みを行っている。
杉並区	地域移行促進部会では「障害者の地域移行促進」を進めるにあたり、当事者であるピア相談員の意見を取り入れた精神障害者グループホーム活用型ショートステイ事業を開始したり、精神科病院との懇話会などを協働で実施したりした。
武蔵野市	地域自立支援協議会の専門部会に「地域移行部会」を立ち上げ、市民が1年以上入院している区市町村の精神科病床のある病院へ実態調査を行った。
町田市	病院への訪問や保健・医療・福祉関係者によるネットワーク会議の開催を通して、地域移行に関する現状と課題の把握及び情報共有を行う。
小金井市	多摩地域の精神科病院に本市市民の入院状況に係るアンケートを送付し、本市市民が入院しており、かつ協力いただける病院に、当事者あてのアンケートを送付。さらに当事者から回答をもとに退院促進の対象とし得る方を抽出し病院へ出向いて働きかけを行った。
日野市	精神障害者等支援協議会を設置し、医療保健福祉関係者で課題の検討を行っている。
国分寺市	精神保健福祉部会の作業部会において、近隣の病院を、看護部・医療相談室・作業療法室など部門毎に訪問し、地域移行について協議を重ねた。
精神障害にも対応した地域包括ケアシステムに関する取組	
中央区	精神障害にも対応した地域包括システム（以下、「にも包括」という。）の構築に向けた事務者レベルのワーキンググループの結成、区内相談支援事業所による事例検討
北区	精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向け、保健・医療・福祉関係者による協議の場を開催しているほか、都内の精神科病院に入院している区民の実態調査の実施や、地域生活に必要な社会資源を紹介するリーフレットの作成・配布を行っている。
板橋区	精神障害にも対応した地域包括ケアシステム検討会において、区内医療機関向けに地域移行リーフレットを作成。また、区民向け退院支援チラシを作成し、区内精神科医療機関への配布と説明、ヒアリングを行った。
昭島市	地域の社会資源を積極的に活用するため、地域包括ケアシステムを構築し、福祉や医療関係者による協議の場を設けている。

	あきる野市	市内に一軒ある精神科病院、障がい者支援課及び基幹相談支援センターと協力して、精神障がいのある方が退院後、地域で安定した生活が送れるよう、個々にあった支援内容についての定期的な会合を持っている（にも包括）。
<b>地域生活基盤の整備</b>		
	北区	第6期北区障害福祉計画・第2期北区障害児福祉計画における成果目標として、「福祉施設の入所者の地域生活への移行」を掲げ、地域生活移行者数の数値目標を設定しているほか、北区障害者計画2021において、地域におけるサービス提供体制の整備を推進することとしており、「障害者グループホームの整備」や「日中活動の場（生活介護施設の整備、ショートステイ事業の充実等）」に取り組んでいる。
	足立区	障がい福祉サービスの充実 <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループホームは地域生活移行に欠かせないサービス（選択肢）の一つであるため、身体・知的・精神障がい者それぞれの定員拡大に取り組んだ。また、精神障がい者向けグループホームは通過型を中心に定員数の増を図っている。</li> <li>・自立生活援助事業について、一定の利用ニーズに対応できる量の確保とあわせて、支援の質を高める仕組みを検討している。</li> <li>・施設入所支援施設について、入所者削減の取り組みを進めつつ、入所支援が必要な障がい者のニーズにも対応できるよう、量の確保とともに支援の質を高める仕組みを検討している。</li> </ul>
	青梅市	グループホーム開設事業者や既存の事業者に対し、重度障害者の地域移行に対応できるグループホームや日中活動施設の開設や定員増を働きかけている。
	調布市	市が独自に行う通所施設への運営費（家賃）補助の補助率算定に係るポイント指標において、事業所が地域移行者を受け入れた場合にポイントを加算することとしている。
<b>相談支援体制の整備</b>		
	中央区	ピアサポート活動の一環として講演会や勉強会の実施
	小平市	居住支援事業 市内在住の方で実家から引っ越して一人暮らしをしたい、または、一人暮らしをしている方が市内で転居したい時など、一定の条件に該当する場合、相談を受けている。

質問2：貴区市町村の地域自立支援協議会では、当事者委員の存在によって、地域移行・地域生活支援という課題への取組が、どのように変わりましたか。また変わることが期待されますか。

区市町村名	回答
中央区	当事者の意見を聴くことにより、課題に対して緊迫感を持って取り組むようになった。
文京区	議題の中で当事者の体験や意見を取り入れることで、新たな視点から議論を膨らませることができている。
大田区	さまざまな障害を持つ当事者が参加することにより、それぞれの立場の困りごとや考えが明確になった。
杉並区	当事者の生の声を聴くことで、改めて議論が支援者中心になりがちなことを再認識した。当事者の自己決定を大切にし、誰もが住みやすい地域づくりを考えることが重要だと感じる。
北区	当事者の視点での意見を聞くことができ、より実態を捉えた議論ができていると感じる。
荒川区	当事者が感じる地域資源の不足やサービスの提供体制の現状について、会議の場を通して話を聞くことで、課題として認識することができた。
足立区	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当事者からの発信により課題の所在が整理され、課題解決に向けた取り組みの検討が深まった。</li> <li>・当事者目線だからわかる課題解決の方法や地域の生活者としてのフラットな視点が加わることにより、協議の幅が広がった。</li> </ul>
江戸川区	協議会設置要綱を改正し、今年度から障害当事者の枠を増やしたことで、より障害者の立場に寄り添った課題を見つけ出すことができるようになると思う。
武蔵野市	当事者からの実体験を聞くことで、具体的な事例検討が期待できる。
青梅市	当事者の声により、地域移行に向けて必要な社会資源の足りない部分が実体験として明らかになっている。今後も必要な社会資源を検討するうえで、当事者や家族の意見は重要であると考えます。
府中市	当事者の声を聞くことで、実際に困っていることなどの課題が明確になった。
昭島市	当事者の日常生活や日常で困っていることを知るにより、数値目標の意味や、個別支援が重要であることを再認識した。
調布市	障害のある人が暮らしやすい地域づくりを目指すにあたり、当事者の視点から、既存の施策や枠組み等に捕らわれない課題設定や検討を進めていくことが期待される。

区市町村名	回答
町田市	当事者委員がわかりやすいよう、丁寧な説明を意識することで、会議の目的や議論の焦点が明確になった。また、当事者委員を含めてすべての委員が平等に発言の機会が設けられるように意識して運営している。当事者委員からは困ったときの相談先がわからないことや、障がいを理由とした差別の実体験などについてご意見をいただくことが多いため、相談先の充実等の課題の把握や検討のきっかけとなっている。
小平市	当事者委員の体験談を聞く中で、当事者のまわりの人たちの言葉かけや信頼関係が、当事者の生活や将来に対して重要なポイントになることをあらためて確認できた。いろいろな障がいのある方がいるので、当事者に関わる側の人たちのスキルアップも必要と認識した。
日野市	当事者、当事者の家族等の実体験を踏まえた意見をいただくことで、より実態を踏まえた課題への取り組みの検討が進められる。
国分寺市	当事者の視点からの御意見から、支援者の立ち位置からは把握しきれない支援ニーズを伺うことができた。
東大和市	協議会の中で具体的に地域移行・地域生活支援について協議したことはないが、当事者の声を反映した取組が必要であると思う。
あきる野市	当事者委員がいることで、「私たち抜きに私たちのことを決めないで」という障害者権利条約の理念に立ち戻ることができる。